

1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校学校図書館図書充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	学校図書館法、子供の読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法		
対象・受益者	児童・教員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
学校図書館をさらに充実することで、児童の主體的な学習が可能になり、豊かな情操・確かな学力がはぐくまれています。		学習情報センターとしての学校図書館を機能させるため、調べ学習などで利用する学校図書館図書を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	学校図書館図書標準冊数に対する充足率				単位	%
	説明・算定式	蔵書数÷学校図書館図書標準冊数×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	68	72	77	73		
	実績	66.4	68.1	68.7	69.9		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書の整備は市の施策として充実されるべきものと考えています。図書購入費を追加配当することにより、学校図書館図書が整備されます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で定める学校図書館図書標準に対し整備率が低いことから継続して学校図書館図書の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書を整備することは、児童が自己教育力を養う上で重要な役割を担っており、主體的な学習が可能となり、かつ豊かな情操を育むことができます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	学校で予算執行するため取りまとめの時間がかかるため検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	338
	一般財源	22,704	16,778	12,143	11,813
事業費 (A)		22,704	16,778	12,143	12,151
執行率 (%)		100.00	62.83	45.47	99.76
内訳	職員 (人)	0.11	0.11	0.11	0.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		924	924	920	1,239
フルコスト (A+B)		23,628	17,702	13,063	13,390

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	②:若干遅れている 廃棄冊数が多く、全体の実績値(充足率)が増加しにくい ため。	①:予定どおり -
	主な取組と成果	各学校で計上した図書購入費に各校377千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させた。	各学校で計上した図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。	各学校で計上した図書購入費に各校50千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。	各学校で計上した図書購入費に各校50千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	B:おおむね成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校学校図書館図書充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	学校図書館法、子供の読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法		
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
学校図書館をさらに充実することで、生徒の主体的な学習が可能になり、豊かな情操・確かな学力がはぐくまれています。		学習情報センターとしての学校図書館を機能させるため、調べ学習などで利用する学校図書館図書を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	学校図書館図書標準冊数に対する充足率				単位	%
	説明・算定式	蔵書数÷学校図書館図書標準冊数×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	76	79	82	83		
	実績	74.6	76.3	76.3	78.3		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書の整備は市の施策として充実されるべきものと考えています。図書購入費を追加配当することにより、学校図書館図書が整備されています。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で定める学校図書館図書標準に対し整備率が低いことから継続して学校図書館図書の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学校図書館図書を整備することは、生徒が自己教育力を養ううえで重要な役割を担っており、主体的な学習が可能となり、かつ豊かな情操を育むことができます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要であります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		図書の充実	図書の充実	図書の充実	図書の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	14,482	10,304	8,056	7,981
事業費 (A)		14,482	10,304	8,056	7,981
執行率 (%)		100.00	64.47	50.41	99.69
内訳	職員 (人)	0.11	0.11	0.11	0.11
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		924	924	920	909
フルコスト (A+B)		15,406	11,228	8,976	8,890

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	各学校で計上する図書購入費に各校420千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させた。	各学校で計上する図書購入費に各校200千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。	各学校で計上する図書購入費に各校50千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。	各学校で計上する図書購入費に各校50千円を追加配当して図書を整備し、学校図書の蔵書数を増加させました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の定める標準冊数に達するよう予算の確保に努めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校理科教材等充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	理科教育振興法		
対象・受益者	児童・教員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
観察・実験を通して、児童の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。		科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	理科教育等設備整備基準整備率				単位	%
	説明・算定式	整備金額÷整備基準金額×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	62.1	64.4	66.6	69.4		
	実績	60.9	63.8	67.7	69.5		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えています。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから、継続して教材教具の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな児童が増えるように理科教材の整備を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため、取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	193	226	10,755	3,199
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	3,889
	一般財源	11,493	7,932	18,186	5,308
事業費 (A)		11,686	8,158	28,941	12,396
執行率 (%)		100.00	47.19	167.42	98.74
内訳	職員 (人)	0.12	0.12	0.12	0.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,007	1,007	1,003	1,239
フルコスト (A+B)		12,693	9,165	29,944	13,635

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	各学校で計上した理科教材購入費に各校150千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図った。	各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。	理科教材購入費を増額補正するとともに、各校100千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。	平成21年度からの繰越明許による理科教材等の整備を行うとともに、各校25千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校理科教材等充実事業		
事業担当	教育総務部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	理科教育振興法		
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
観察・実験を通して、生徒の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。		科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	理科教育等設備整備基準整備率				単位	%
	説明・算定式	整備金額÷整備基準金額×100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	50.6	52.4	54.1	58.9		
	実績	50.1	54.4	57.4	58.8		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えてます。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されてます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから継続して教材教具の整備に努める必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな生徒が増えるように理科教材の整備を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	193	226	6,185	1,596
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	1,502
	一般財源	8,397	7,146	12,870	5,123
事業費 (A)		8,590	7,372	19,055	8,221
執行率 (%)		100.00	63.61	164.41	93.07
内訳	職員 (人)	0.12	0.12	0.12	0.12
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,007	1,007	1,003	992
フルコスト (A+B)		9,597	8,379	20,058	9,213

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	各学校で計上した理科教材購入費に各校150千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図った。	各学校で計上した理科教材購入費に各校50千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。	理科教材購入費を増額補正するとともに、各校100千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。	平成21年度からの繰越明許による理科教材等の整備を行うとともに、各校25千円を追加配当して理科教材を整備し、理科教材の充実を図りました。
検証結果		A: 成果があがった 平成21年度への展開	A: 成果があがった 平成22年度への展開	A: 成果があがった 平成23年度への展開	A: 成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努める。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。	早い時期に国の設備基準に達するよう予算の確保に努めます。



1. 事業の位置付け

事務事業名	小学校体育館耐震補強事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	地震防災対策特別措置法		
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することにより、児童などの安全が確保されています。		児童などの安全及び避難施設の安全を確保するため、新耐震設計基準を満たさない体育館の耐震補強を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	耐震補強工事実施校数				単位	校
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	2	2	3		
	実績	1	3	2	3		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	耐震基準を満たす学校数の割合				単位	%
	説明・算定式	耐震基準を満たしている学校数÷対象小学校数(27校)×100 ※全28校のうち、花水小学校体育館は改築とするため対象外					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	50	57	64	78		
	実績	50	61	74	89		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	耐震補強工事により、教育環境の改善及び児童生徒の安全確保という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することで、児童生徒の安全が確保されるため、本事業は市民満足度を高める有効性は高いです。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>□ 受益者負担、補助額</li> <li>□ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	体育館の耐震性能を確保することで、児童生徒の安全確保や地域拠点整備をすることから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>■ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	耐震補強工事に併せて老朽化している施設を整備することで今後の維持管理費のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		耐震診断、補強設計、 補強工事	補強設計、補強工事	耐震補強設計、耐震補 強工事	耐震補強設計、耐震補 強工事
財源内訳	国庫支出金	23,100	92,844	86,709	193,693
	県支出金	0	0	0	0
	起債	45,000	234,000	94,000	323,000
	その他 特財	0	0	0	4,987
	一般財源	47,837	42,229	27,356	35,726
事業費 (A)		115,937	369,073	208,065	557,406
執行率 (%)		94.85	110.26	58.55	99.99
内訳	職員 (人)	0.60	0.60	0.35	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,035	5,035	2,925	6,195
フルコスト (A+B)		120,972	374,108	210,990	563,601

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	耐震補強工事(相模小)、耐震補強設計(神田小、なでしこ小、富士見小)、耐震診断(みずほ小、松延小、南原小、真土小、旭小、勝原小、城島小、金目小、松が丘小)を実施し、児童などの安全や避難施設の安全の確保を進めた。	耐震補強工事(神田小、なでしこ小、富士見小)及び耐震補強設計(城島小、松が丘小、金目小)を実施しました。	耐震補強工事(城島小、金目小)及び耐震補強設計(みずほ小、真土小、南原小、勝原小、松延小)を実施しました。	耐震補強設計委託2校(旭小、横内小)及び耐震補強工事3校(松が丘小、真土小、みずほ小)を実施しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		耐震化の完了を目標とする平成24年度までに計画性をもって整備を進めていく必要がある。	耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。	体育館の耐震化について、平成24年度までに完了するよう計画的に整備を進めていきます。	耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校体育館耐震補強事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	地震防災対策特別措置法		
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することにより、生徒などの安全が確保されています。		生徒などの安全及び避難施設の安全を確保するため、新耐震設計基準を満たさない体育館の耐震補強を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	耐震補強工事実施校数				単位	校
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1	1	3	1		
	実績	1	1	3	1		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	耐震基準を満たす学校数の割合				単位	%
	説明・算定式	耐震基準を満たしている学校数 ÷ 対象中学校数(14校) × 100					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	57	64	86	93		
	実績	57.1	64	86	93		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事により、教育環境の改善及び児童生徒の安全確保という事業の目的が達成されるため、必要性は高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性を高め、災害時の倒壊を防止することで、児童生徒の安全が確保されるため、本事業は市民満足度を高める有効性は高いです。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	体育館の耐震性能を確保することで、児童生徒の安全確保や地域拠点整備することから妥当性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	耐震補強工事に併せて老朽化している施設を整備することで今後の維持管理費のコスト削減に繋がるため、効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		耐震診断、補強設計、 補強工事	補強設計、補強工事	耐震補強工事	耐震補強工事
財源内訳	国庫支出金	52,327	44,790	253,091	78,216
	県支出金	0	0	0	0
	起債	97,000	127,000	235,000	153,000
	その他 特財	24,000	0	0	0
	一般財源	39,784	40,850	20,723	1,753
事業費 (A)		213,111	212,640	508,814	232,969
執行率 (%)		95.06	129.98	305.19	100.00
内訳	職員 (人)	0.50	0.50	0.35	0.35
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		4,196	4,196	2,925	2,891
フルコスト (A+B)		217,307	216,836	511,739	235,860

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	耐震補強工事(土沢中)、耐震補強設計(大住中)、耐震診断(山城中、神明中、金旭中)を実施し、生徒などの安全や避難施設の安全の確保を進めた。	耐震補強工事(大住中)、耐震補強設計(山城中、神明中、神田中、金旭中、江陽中)を実施し、生徒などの安全や避難施設の安全の確保を進めました。	耐震補強工事(山城中、金旭中、江陽中)を実施しました。	耐震補強工事(神田中)を実施しました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		耐震化の完了を目標とする平成24年度までに計画性をもって整備を進めていく必要がある。	耐震化の完了について、計画性をもって整備を進めていく必要があります。	体育館の耐震化について、平成24年度までに完了するよう計画的に整備を進めていきます。	中学校の体育館については、平成23年度に耐震化が完了するよう進めていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	太洋中学校体育館整備改築事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	～ 2010 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
老朽化した体育館を改築することにより、体育環境の充実が図られています。		整備必要面積の基準を満たさず、耐力度調査で危険建物の認定を受けたことから、充実した体育環境の整備を行い、生徒などの安全及び避難施設の安全を確保するため、太洋中学校体育館を改築します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	体育館整備改築進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成22年度を100%とした体育館整備改築進捗率。H20:改築設計10%、H21:改築工事40%、H22:改築工事50%					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	10 10	50 50	100 100		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	改築するにあたり学校関係者等と協議することは事業の目的を達成するために必要性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	地域住民から体育館の改築の期待が高まっており、改築することで教育・体育環境の向上等が図られ、市民満足度の有効性が高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	建物自体の耐震強度は非常に弱く耐震対策が必要な建物であるため、改築する事業の目的の妥当性が高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	改築することにより維持管理費のコスト削減に繋がることから効率性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	改築設計	既存体育館解体工事、 改築工事	改築工事
財源内訳	国庫支出金	—	0	42,119	60,197
	県支出金	—	0	0	5,332
	起債	—	0	27,000	521,000
	その他 特財	—	0	6,195	7,563
	一般財源	—	0	5,404	12,027
事業費 (A)		—	0	80,718	606,119
執行率 (%)		—	0.00	30.58	99.43
内訳	職員 (人)	—	0.40	0.35	0.60
	再任用 (人)	—	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		—	3,357	2,925	4,956
フルコスト (A+B)		—	3,357	83,643	611,075

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	—	太洋中学校体育館の整備改築設計を実施しました。	太洋中学校体育館の整備改築設計及び既存体育館の解体や改築工事(基礎工事)を実施しました。	太洋中学校体育館の改築工事を実施しました。
検証結果		—	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。引き続き、学校関係者、関係機関と改築の詳細について協議していくことが必要となる。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いです。又、事業が完了できるよう計画的に進めていく必要があります。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いです。なお、事業が完了できるよう進めていきます。	

1. 事業の位置付け

事務事業名	花水小学校体育館整備改築事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒及び教員、その他の学校利用者	事業期間	2010年～2012年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
老朽化した体育館を改築することにより、体育環境の充実が図られています。		児童などの安全及び避難施設の安全を確保するため、花水小学校体育館を改築します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	体育館整備改築進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成24年度を100%とした事業進捗率。H22:耐力度調査及び改築設計10%、H23:改築工事40%、H24:改築工事50%					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績	— —	— —	— —	10 10		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>□ 受益者負担、補助額</li> <li>□ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	改築するにあたり学校関係者等と協議することは事業の目的を達成するために必要性は高いです。 地域住民から体育館の改築の期待が高まっており、改築することで教育・体育環境の向上等が図られ、市民満足度の有効性が高いです。 建物自体の耐震強度は弱く耐震対策が必要な建物であるため、改築する事業の目的の妥当性が高いです。 改築することにより維持管理費のコスト削減に繋がることから効率性は高いです。

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	—	—	耐力度調査及び改築設計
財源内訳	国庫支出金	—	—	—	0
	県支出金	—	—	—	0
	起債	—	—	—	0
	その他 特財	—	—	—	0
	一般財源	—	—	—	13,923
事業費 (A)		—	—	—	13,923
執行率 (%)		—	—	—	73.24
内訳	職員 (人)	—	—	—	0.60
	再任用 (人)	—	—	—	0.00
人件費 (B)		—	—	—	4,956
フルコスト (A+B)		—	—	—	18,879

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	—	—	①: 予定どおり
		—	—	—	—
主な取組と成果		—	—	—	耐力度調査及び改築設計を実施しました。
検証結果		—	—	—	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		—	—	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いです。又、事業が完了できるよう計画的に進めていく必要があります。	花水小学校体育館の改築工事を計画通りに実施します。



1. 事業の位置付け

事務事業名	通級指導教室整備事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等	学校教育法施行規則第140条		
対象・受益者	幼児・児童・生徒・保護者・教職員	事業期間	2010年～2010年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
通級指導が必要な子どもたちが、整備された通級指導教室で個々の教育ニーズに応じたきめ細かい指導が行われています。		「ことばの教室」の施設老朽化・狭あい化を解消し、発達障がいの子どものための教育ニーズに対応するため、「ことばの教室」と「(仮称)発達障がいの子どものための教室」を併設した通級指導センター的機能を持つ施設の整備を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	通級指導教室整備進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成23年度を100%とした事業進捗率。H22:土質調査10%、施設建設80%、H23:解体工事10%					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績				90 90		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	通級指導教室「ことばの教室」の施設老朽化に伴い改築が行われなければなりません。また、発達障がいの子どものにも対応できる新たな通級指導教室の設置が求められています。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	通級指導教室の整備は改築に向けて欠かすことはできません。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	発達障がいの子どものにも対応できる通級指導教室としての整備が求められています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	計画的に整備していく必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	—	—	土質調査、施設建設 (リース)
財源内訳	国庫支出金	—	—	—	0
	県支出金	—	—	—	0
	起債	—	—	—	0
	その他 特財	—	—	—	0
	一般財源	—	—	—	7,200
事業費 (A)		—	—	—	7,200
執行率 (%)		—	—	—	87.19
内訳	職員 (人)	—	—	—	0.60
	再任用 (人)	—	—	—	0.00
人件費 (B)		—	—	—	4,956
フルコスト (A+B)		—	—	—	12,156

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	—	—	—	①: 予定どおり
		—	—	—	—
主な取組と成果		—	—	—	通級指導教室の整備を実施しました。
検証結果		—	—	—	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		—	—	通級指導教室の改築に当たっては、「ことばの教室」と「(仮称)発達障がいの子供のための教室」を併設した通級指導センター的機能をもつ施設を整備する必要があります。	平成23年度に既存の「ことばの教室」を解体します。

1. 事業の位置付け

事務事業名	相模小学校移転整備事業		
事業担当	教育総務部 教育施設課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	0	事業期間	2010 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
相模小学校の移転がなされ、隣接校が解消されるとともに、地元の児童や住民の利便性が高まっています。		隣接校解消のため、相模小学校の移転を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						
成果指標①	指標名	小学校用地買収進捗率				単位	%
	説明・算定式	平成24年度を100%とした事業進捗率。H22: 用地選定10%、H23: 測量10%、H24: 用地買収80%					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績					10 10	
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標 実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	次期環境事業センターの建設に伴う「合意書」に基づき実施する事業であるため、実施の必要性は非常に高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業実施は地元住民の要望によるものであるため、隣接校の解消がなされれば、市民満足度はかなり高まるものと思われれます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	環境部と教育委員会に関連する事業であるため、業務の執行体制を明確にし、それぞれの業務を着実に推進していきます。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	小学校用地の選定に当たっては、地元の検討組織との十分な協議が不可欠であるため、スケジュール管理を行いながら、効率的に検討を進める必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		—	—	—	事業説明会、用地説明 会の開催
財 源 内 訳	国庫支出金	—	—	—	0
	県支出金	—	—	—	0
	起債	—	—	—	0
	その他 特財	—	—	—	0
	一般財源	—	—	—	0
事業費 (A)		—	—	—	0
執行率 (%)		—	—	—	0.00
内 訳	職員 (人)	—	—	—	0.15
	再任用 (人)	—	—	—	0.00
人件費 (B)		—	—	—	1,239
フルコスト (A+B)		—	—	—	1,239

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進 捗 状 況	遅れている 理由	—	—	—	①: 予定どおり
		—	—	—	—
主な取組と成果		—	—	—	小学校用地の選定に向 け、事業説明会や用地説 明会を開催するととも に、地元の検討組織と十 分に協議を行いました。
検証結果		—	—	—	A : 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた 課題		—	—	今後、ツインシティーの 事業計画との整合性を図 りながら、事業実施に向 けた庁内及び地元の推進 体制を整え、相模小学校 移転までのスケジュール を調整する必要があります。	今後、ツインシティーの 事業計画との整合性を図 りながら、事業実施に向 けた庁内及び地元の推進 体制を整え、相模小学校 移転までのスケジュール を調整する必要があります。